

## 館長室より

## 地域社会と協働の博物館運営

岡山県立博物館では、平成19年の正月から一か月間、企画展「上寺山餘慶寺と豊原北島神社」展を開催しました。吉井川を見下ろす瀬戸内市の小高い山に位置する「上寺山餘慶寺」と「豊原北島神社」に伝わる多くの文化財を公開しようと計画したものです。

博物館の望ましい姿として「市民参加」がいわれています。多くの人々の積極的な支持や参加を得て、博物館の活動に協力が得られる館づくりが必要だと提言されています。今回の展覧会は、このような報告を受け、今までの博物館の展覧会と異なって新しい試みを数多く取り入れました。この取り組みに参加していただいた各団体の活動状況について紹介します。

まず、全面協力をいただいたのが「上寺山を良くする会(有森剛 会長)」です。両寺社の檀家や氏子を中心に地元有志で構成され、寺や神社に対する思いは人一倍強く、今回の展覧会の開催に当たって、所蔵の資料の調査に瀬戸内市教育委員会とともに協力をいただきました。成果は、(財)福武文化振興財団の助成を受け、図録「備前上寺山 歴史と文化財」として刊行され、高い評価を受けています。また、展示資料の運搬経費の一部も負担いただき、ほぼすべての所蔵品を展示することができ、格調高い展覧会となりました。開催期間中は「良くする会」の多くの会員の方々が連日博物館を訪れ、展示室は人々で賑わいました。

次は、「岡山天台声明研究会(永宗幸信 代表)」です。声明とは、呪文や経文に節をつけて詠唱するもので、日本の歌曲の原点といわれ、近年、その調和の美しさから癒しの音楽として注目されています。展覧会の開催期間中2日間にわたり、天台声明の公演が開催されました。

通常、静寂が原則の展示室の中で、多くの仏像や涅槃図に囲まれて、10人を超える僧侶の声明のコーラスはある種独特の雰囲気醸成し、多くの聴衆は魅了されました。

もう一つは、華道「美笑流」です。「美笑流」は、餘慶寺恵亮院に家元が代々受け継がれた生け花の流派です。開催期間中2回にわたって大幅な入れ替えが行われ、前半は正月にふさわしく、蠟梅を中心とした華やかな色と香りが博物館に漂い、後半は、雄大な松の見事な枝振りが来館者を圧倒しました。生け花とは女性が行うものとの先入観がありましたが、「美笑流」の生け花は、屈強な男性が、鋸やドリル、針金などを駆使して大胆に組み立てていき、まるで大工仕事を行っているような感がありました。同行された女性が「もう少し上、もっと右」などと細かな指示をされ、お互いの連携で見事な完成品となりました。期間中は、水やりや生花の取り替えなどに、何度も博物館を訪れていただきました。

全国的に博物館を取り巻く環境は大変厳しくなっています。今回の展覧会を通して、多くのボランティアの方々に、博物館の運営に参加していただきました。地域と博物館が連携し、協働で開催し、大きな成果をあげた事例です。今回の展覧会が残したものは、貴重な文化財の余韻だけでなく、多くの方々の善意が、貴重な財産として末長く人々の心に残り、今後の博物館運営の在り方を示す一つの方向性であったと確信しています。

改めて、今回の展覧会に御協力いただいた関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。(館長 芦田和正)



「美笑流」の生け花

特別展 「武士の美と心 - 岡山のサムライたち - 」 サムライスピリットを感じてみないか

本館では、平成18年10月27日（金）～11月26日（日）まで、特別展『武士の美と心 - 岡山のサムライたち - 』を開催しました。本展では、岡山ゆかりの武士を中心に、美術・工芸・書画の名品や文書史料、計110件の文化財を展示し、武士の美と心を紹介しました。

4つのテーマで武士の世界へ招待

「第1章 描かれた武士の姿」では、武士を描いた屏風や絵巻物を通じて、武士の世界へ御案内し



本展の  
広報ポスター

ました。「第2章 岡山ゆかりの武士たち」では、岡山の歴史を彩った武士に光をあて、肖像画や書画からその人物像に迫りました。「第3章 武士の装い - 甲冑と武具 - 」では、本館の誇る国宝 赤韋威鎧をはじめ、武士が戦場で命を託した甲冑や武具の名品を取り上げました。「第4章 武士の象徴 - 日本刀 - 」では、日本刀の代名詞ともいえる備前刀の名品から、武士の魂、そして鉄の芸術といわれる日本刀の美を紹介しました。

多彩な関連事業 - 心と技を伝える -

本展では、武士の美意識を反映した様々な文化財を紹介しましたが、展示では表現するのが難しい心や技を伝えるため、多彩な関連事業を開催しました。まず、記念講演会では東京国立博物館上席研究員の原田一敏先生に「武士の美と心 - 装いと教養 - 」という題目で、武器・武具と武士文化をテーマに講演していただきました。また、子どもを対象にした「本物のよろいを着てみよう！」

では、本物の甲冑を実際に着てもらいました。家族との記念撮影もあり、楽しい一日となりました。そして、「古武道の演武」では、岡山ゆかりの古武道である竹内流柔術・兵法二天一流剣術・初實剣理方一流甲冑抜刀術の演武を行いました。修練を積んだ演武者の技はスゴイの一言で、いずれも大勢の観客で賑わいました。

特別展の成果と次なる目標

本展は、計6,422名もの方々が御観覧くださり、展示図録も初版完売で増刷するなど、大変盛会となりました。岡山にも熱いサムライたちがいたこと、武士文化の名品が数多くあることを知ってもらいたい、そして武士の息吹を伝えたいと、展示内容や方法、関連事業を工夫しました。結果として、総花的ではありますが、幅広くバランスのとれた展示ができたと思います。この成果をもとに、次回は刀剣・甲冑など、個々のテーマを深めた展示を企画していきたいと思っています。

（学芸員 佐藤寛介）



気分はサムライ！  
本物のよろいを着て  
みよう！



歴史ファンが集った  
記念講演会



息をのむ迫力の演武に観客  
も真剣！ 古武道の演武

## 企画展 「上寺山餘慶寺と豊原北島神社 備前南部の文化財」を終えて

平成19年1月5日～2月4日

餘慶寺とその末院6院、豊原北島神社がある上寺山は、建造物はもちろん、文書・経典・絵画・彫刻など多くの文化財を伝える、まさに備前南部では有数の文化財の宝庫といえます。

上寺山の寺社の檀家・氏子の有志団体「上寺山を良くする会」では、この歴史あるエリアを地元の人々に親しまれる場所にしようと、秋祭り、宝物公開、年末年始のライトアップ、森の整備といった事業を行ってこられました。そして本館の企画展開催にあたっては、「上寺山を地元の人々が誇りに思う場所にしたい」「誇りうる歴史と文化財があることを皆さんに知ってほしい」そんな思いをよせられ全面的な協力をお申し出いただきました。

企画展に先立ち、約2年をかけて瀬戸内市教育委員会と協働で資料調査を行い、その結果多くの新発見もありました。この企画展はそんな調査の結果や、すでに知られている宝物などを総合して、上寺山の歴史と文化財をあらためて御紹介するものでした。

吉備地方で随一と評される餘慶寺の薬師如来坐像（重要文化財）、完全な姿を今日も伝える工芸の粋をつくした豊原北島神社の色々威大鎧（重要文化財）、池田家から奉納された見事な刺繍の袷袈や極彩色の千手観音画像などのほか、古文書や縁起書、棟札などの実物資料を前にして郷土の歴史をうかがうのは、「読み」「聞く」からだけでは得られない感動と実感があつたのではないのでしょうか。

（学芸員 中田利枝子）



## ミュージアムブリッジinおかやま・かがわ 「高松松平家の名宝」

瀬戸内海をはさんで向かい合う、岡山・香川両県の文化交流事業。本年、記念すべき第一回の岡山・香川の交流展が開催されました。テーマは「高松松平家の名宝」。香川県歴史博物館の収蔵品を代表する優品が、岡山県立博物館に初めてそろいました。

この展覧会は、東讃岐12万石を領し、高松に城を構えた松平家に伝来した大名道具のうち、主に公式な場で用いられた表道具について、「書画」「茶道具」「武具」の3部に分けて紹介しました。

ここではその中から高松松平家の名宝を特徴づける2点を紹介します。まずその1点が、「赤楽茶碗 銘 木守」です。これは、千利休が作らせた楽茶碗「長次郎七種」のひとつで、武者小路千家に伝来し、その後松平家に献上されたものです。利休が弟子に長次郎作の茶碗を選び取らせたと、この茶碗が残ったことから、翌年の実りを祈って柿の木にひとつ残される実を「木守」と呼ぶことにちなんで名付けられたものです。残念ながら関東大震災で破損したものの、残片を嵌め込んで復元し、今日でも、武者小路千家の重要な茶事で用いられる特別な茶碗です。

もう1点は、「和歌巻 仙洞御加筆」です。これは、高松松平家初代藩主松平頼重が記した自詠の和歌に、後水尾上皇が添削を加えて返した和歌巻です。後水尾上皇は当時の宮廷歌壇の頂点に位置し、後進の和歌指導も熱心に取り組んでいました。この資料から、藩主の高い教養と文化的交流のひろがりを感じることができます。

高松松平家は水戸徳川家の筆頭分家であり、藩祖松平頼重は水戸藩初代藩主徳川頼房の長男。「大日本史」編纂で有名な徳川光圀の兄に当たり、初代将軍徳川家康の孫。今回の展覧会では、幕府や御三家、朝廷との交流を含めた豊かな大名文化を感じることができました。

（学芸員 浅野慎太郎）



赤楽茶碗 銘 木守

新収蔵資料の御紹介 太刀 長光ほか「須賀宏文名刀コレクション」

このたび、岡山市出身の医師須賀宏文氏（故人）が収集された刀剣資料が、岡山県に寄附されました。国指定重要文化財「太刀 長光」をはじめ、備前刀を中心とする質量とも極めて優れた刀剣コレクションです。



太刀 長光（国指定重要文化財）

須賀氏は生前、趣味で収集されていた刀剣について、将来的に博物館などの公的機関に託して後世に残したいという意向をお持ちでした。平成19年1月23日、岡山県庁知事室で贈呈式が行われ、須賀稜子氏（宏文氏の奥様）から石井知事に目録が手渡されました。



贈呈式の様子

本館では、平成19年6月からの特別陳列「日本刀 - 須賀宏文名刀コレクション - 」で、この貴重な資料を展示公開いたします。須賀宏文氏ならびに御遺族の厚志により、岡山県民の共有文化財となった名刀の数々を、ぜひ御覧ください。

（学芸員 佐藤寛介）

夢づくりプラン 「吉備の国歴史探検ツアー」報告書ができました。

今年度より実施の夢づくりプラン「吉備の国歴史探検ツアー」の報告書ができました。この報告書は、館内での発表やホームページへの掲載とともに県内の小中学校・図書館等へ配布しています。今年度は高梁、津山、井原の3コースを実施し、あわせて100名余りの子どもたちが参加しました。活動の様子からは子どもたちの元気な声が聞こえてくるようです。また、子どもたちの描いた博物館の展示資料が報告書の中で輝いています。次年度は、コースを変えて、地域内の学校単位で実施をする計画です。多くの子どもたちが県内の文化財をめぐり、博物館を訪れ、新たな発見をし、岡山県の歴史と文化の担い手となってくれることを期待しています。



岡山県立博物館見学のページ

この事業は3ヶ年計画の実施予定で19年度は備前・真庭・美作の3コースを予定しています。

（学芸員 鈴木力郎）



造山古墳・誕生寺・矢掛本陣見学のページ

